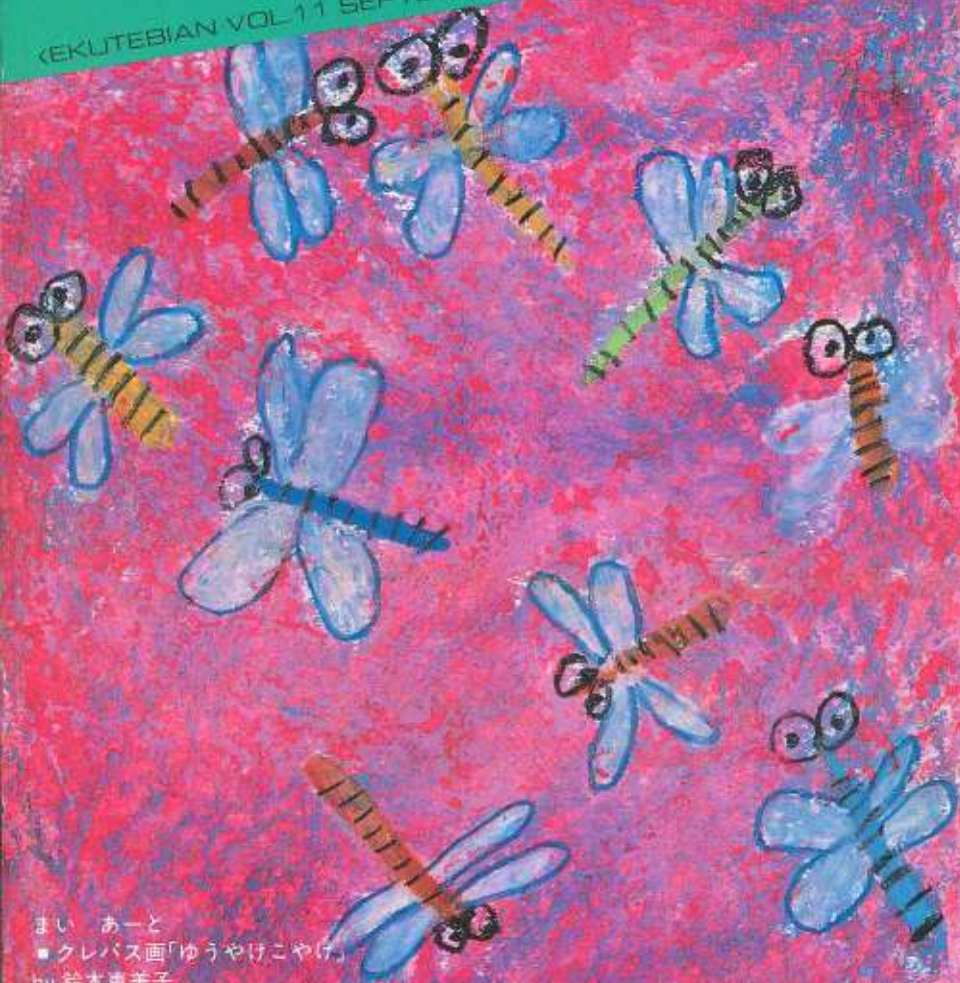
月刊
えくてびあん
立川と語ろう　立川に生きよう
9
〈EKUTEBIAN VOL.11 SEPTEMBER 1992-EKUTEBIAN〉
まい　あーと
■クレパス画「ゆうやけこやけ」
by 鈴木恵美子

兆治再演

原作　山口　瞳（新潮社刊）　脚本　安倍徹郎

山口瞳さんの名作『居酒屋兆治』は映画化され、兆治に高倉健、舞台は函館だった。だが原作は国立、立川界隈を中心にドラマが繰り広げられている。「原作に忠実に」しかも「瞳ぶし」を十分に利かせてこの夏、フジTV系で全国のお茶の間に流れた。台本を書いたのが、われらが安倍徹郎さん(栄町)、これがよかった。その上、砂川昌平さん、関頑亭さんらがノリに乗って「友情出演」、兆治の魅力を余すところなく引き出した堂々の二時間ドラマが沸いた。

国立の関頑亭夫妻。山口瞳作品の挿絵を描き続けている画家。立ち上がりシーンで登場。

物語のモデルとなった居酒屋「文蔵」（谷保駅前）の主人と主演の渡辺謙さん。

地元の人たちが女優の耀きを肌で感じたという永島暎子さん

山口瞳さん宅にて、兆治の女房役の桜田淳子さん

仲人役として出演。立川の砂川昌平さん。

脚本家の安倍徹郎さん（左から２番目）主演の渡辺謙さん（左から５番目）、監督の三村晴彦さん（一番左）と出演した国立、立川の人たち。

直美さん 28歳／拓海くん 5ヶ月

嵩さん 30歳

千賀子さん 57歳

高信さん 61歳

マチさん 78歳

眞一さん 85歳

四世代の団欒一家

明治、大正、昭和、平成四つの時代がひとつ屋根の下に揃って住んでいるという、スケールの大きい、家族の温もりたっぷりの土方さんご一家（幸町）。夏が過ぎて、これから秋も深まってくれば「隣は何をする人ぞ」人の胸にも秋風が……しのび寄ります。土方さんの家を訪問して、これが「家族」というものなのかと、その温かさに後ろ髪を引かれる思いでした。

が、まさに時代のノスタルジーファミリーなのです。訪問した日にも元気に這い回ろうとする、拓海くんをみんなで抱き合うようにして、微笑んで…。「私も嫁で大変でした」と千賀子さんが言う側におばあちゃんのマチさん。マチさんはニッコリ話を聞きながら相づちを打つように「最近耳が遠くて」と大声でタイミングよく言う。それを、近所から遊びに来た人も見ていて思わず大笑い。昔風というか、家族が多い分、人と心も重なり合う場面が多い。いろんなところであったかい。

●赤ちゃんは幸せ配達人

はじめは孫の嵩さん夫婦は、家の前のマンションにいたという。それが、今年に入り、ひ孫の拓海くん誕生を折に同居を決意。どちらがいいか大変悩んだという千賀子さんも、拓海くんが家の中へやって来るとたちまち、それも吹き飛んだ。かわいくてかわいくてまさに幸せ配達人のようだ。

●それぞれが温かな目で

「近所の方からは、いいですねえ大勢一緒で、とよく言われるんですが、何よりも、ひ孫がかわいいのが一番」とマツさん。また、孫娘の直美さんも「子どもの為にも誰かにいつも見てもらえるし、大きな部屋に転がしておいても大丈夫だし、助かります」と。また核家族化が当然のようになっている中で若者が親と同居、まして祖父母同居が続いている秘訣はという質問に、嵩さんは「それぞれいろいろありますが人が多いから干渉しないようにして、あとは、それぞれが温かい目を持つことかなあ」と。4つの時代が確かに一つに生きている。時代の考え方感じ方も一つに生きているということのようです。家族バラバラ時代に他にはないものを見せてもらったような気がして幼稚園を後にした。平成生まれの拓海くんの成長につれてこれから大きくまた変わっていくことでしょう。

●振り向くと誰かいて

明治生まれ、眞一さん。85歳。
大正生まれ、マチさん。78歳。
昭和生まれ、高信さん。61歳。
昭和生まれ、千賀子さん。57歳。
昭和生まれ、嵩さん。30歳。
昭和生まれ、直美さん。28歳。
平成生まれ、拓海くん。5カ月。

この中で8月生まれが二人いることから幼稚園の庭でバーベキュー大会をすることが四世代会議の決定事項。毎年恒例になっているというのは、かしの木幼稚園を家族で運営している土方一家。冬にも12月生まれに合わせて、ケーキのパーティーをするという。羨ましいという声も聞こえてきそうだ。

ことわざ問答㉚

漢字一字挿入せよ

愛は屋上の■におよぶ

鞍上人なく鞍下■なし

立川トピックス

ミス立川に和田利恵さんが栄冠

8月1日、伊勢丹8階ホールでミス立川コンテスト併せて、スポーティーギャルコンテストが開催された。

一次審査を終えた43人が次々に登場。準ミスには、テンプル大4年生のト部カリーナさん（写真右・21歳）＝上砂町＝とルミネ立川店の川島千明さん（左・21歳）＝柏町＝。そして、ミス立川の栄冠は、多摩中央信用金庫の和田利恵さん（18歳）＝の上に輝いた。また、ミス・スポーツギャルは川田利江さん（19歳）となった。ミス立川の3人は、早速、その日の夜の花火大会でお披露目した。

立川に演劇旋風か

多摩地区のアマチュア劇団が勢ぞろいしてのステージ「真夏の夜の演劇祭」が市民会館で8月1日から8日まで行われ、9劇団が熱演を繰り広げた。演劇を通して地域の文化を掘り起こし、小劇団に発表の場を提供していこうという趣旨で募集したところ、32劇団が応募。夏の演劇祭だけでは間に合わず、来年2月には「星降る夜の演劇祭」も計画中。特別企画として8月21日から30日まで、太田和勇さんの演劇企画「くすのき」など専門劇団による公演も行われる。審査により優秀団体が決まるのも楽しみである。

立川クイズ

昔からの道にはそれぞれにドラマがありまして、道を通して街の来し方がしのばれることも。さて、砂川に"大山道（おおやまみち）"という道があります。

砂川三番辺りから大山団地の東を昭島方面へ走る道ですが、その名前の由来は次のどれでしょうか。①大山団地のそばを通るから②砂川開拓の時、大山某という人がこの道を開いた③相模の大山阿夫利神社へお参りする道だった。

【8月号の答】②

大正14年7月、立川飛行隊の兵隊のために立川で最初の映画館"立川キネマ"が高松町に開館しました。左が婦人席、右が男子席、中央は同伴席、そして後ろには警官の臨官席という、今では考えられないつくりだったそうです。シネマ通りにその名をとどめ、昭和52年、閉館となりました。

真如苑だより

祭りも終わって、あんなに暑かった夏がようやくうしろ姿をみせようとしております。朝夕の空気がひんやりとしてきましたし、こころなしか、大空が澄んで見えます。

真如苑では、今月も皆さまのお越しをお待ち申し上げております。涼しいひと時をお過ごしください。

■日時　9月15日(祝)　2時～4時
■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。
■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」（本誌を手渡してくれた人）へ。

表紙は語る

まい・あーと　クレパス画『ゆうやけこやけ』by 鈴木恵美子

今回の作品は5月に立川画廊で展覧会を開いた、絵画教室「小さなアトリエ」展からの作品です。作者は、鈴木恵美子さん。きれいな夕焼け色にトンボが飛んでいます。この作品を描いた時、恵美子ちゃんは一年生。7歳の生命体いっぱいに感じた秋をそのままの色で描いています。水彩画との併用ですが、大人では描けない色使いでどこか透明な気持ちにしてくれます。3歳の頃から描くのが好きで、近所で絵画教室が開かれていると教えると、ぜひ行きたいと、自分から幼稚園の年長の時（5歳）に通い始めたとか。お父さんの話では、「恵美子は絵を描き上げるのがとても早く、感じたことを絵にしている様子だ」と。将来は、子どもに絵を描いてあげたり、一緒に遊んだり、幼稚園の先生になるのが夢だという。いつまでも、きれいな色使いで、人の心を打つ作品を描き続けてもらいたいものです。

愛は屋上の鳥におよぶ

ことわざ問答　答

ひとを愛すれば、相手の家の屋根にとまっているカラスまで好きになる。坊主憎けりゃ、の逆

鞍上（あんじょう）人なく鞍下（あんか）馬なし

人馬一体の境地。馬を巧みに乗りこなして、自由自在な様子。異体同心、一心同体の妙技。

東風

価値観が多様化してくると、何が「正しい」のか混沌として判断しにくい。だが、この世にはちゃんと正しさが在るんだと思ったのは、鈴木茂夫さんから自転車の乗り方を習った時のことだ◆鈴木さんといえば、自転車乗りの名人で以前から、一度ちゃんと教えてあげようと誘われていたのだが、延び延びになっていた。だって、当方も人の子、自転車くらいハンドル握ってひと通りは漕げると思っているから、内心、いまさらという気持が働いていた◆ところが、わずか一時間ほど「正しい」自転車の乗り方の指導を受けただけで以前とは見違えるほどスピード感が出るし、第一、乗っている当人の気持が爽やかなのである。いまでも「全き正しさ」の中にいるわけではないが、ちょっと矯正してもらうだけで俄然、走りがちがってくる。ペダルは前へ押すものと思っていたが、同時に反対側の足では蹴り上げるようにして「引く」、これだけのことを教わっただけで自転車が活き活きとしてくる◆当り前と思っていることほど「正しさ」を見失っているのではないだろうか。正しい歩き方。正しい呼吸の仕方。正しい靴下の履き方。正しい煙草の吸い方。正しい番茶の飲み方。正しい顔の洗い方。みんな「正しさ」を持っているのに、私たちは生きることの怠惰から、それをしない◆十五夜の野にあかあかと　えくてびあん

（編集）小川知子　隅川理　中村絵里　原田悦子
平沢正弘　町田健一　山田恵子
（写真）天野武男　板橋一明　井上義治
スタジオ269　枝川一巳　本多修

月刊えくてびあん　第98号
平成四年九月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市柴崎町1-3-37-313
磐城ビル3F　〒190
電話　○四二五(28)○○八二
FAX　○四二五(28)一二九七
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　㈱大廣社

鈴木為佐生さん
（富士見町3丁目）
愛機→ニコンF3
■クルマユリ
私の傑作選
NO.14
NICE SHOT!
誰のアルバムにもキラリッと光る一枚がある。
撮れた！と思った。シャッターが軽い。
田中義三さん
（高松町3丁目）
愛機→ニコンFE2
■アオイトトンボ